

つたわる

3歳の孫が「だいじなもの」と見せてくれたものがある。

入園予定の幼稚園で慣らし保育のこと、一人だけ泣いていた孫に、先生がそつと渡してくれたというどんぐりです。「きてくれてありがとう」「だいじようぶだよ」「またきてね」という先生のやさしい声が、どんぐりから伝わってくるのだらうとババは思う。

ご家族や、患者さんからこんな話を聞くこともある。

「意識のないお父さんの手を先生がずーっと握っていてくれた。わかつているみたいだった。」

「泣いていたら私の背中をさすってくれた。温かった。」

「ぼーっと窓から外を見ていたら、となりに座って一緒に見てくれた。」

人と人の心は伝わるんだと確信した。

そんなに話をしなくても、察してくれていると感じた時、幸せになる。

渴いた身体にスーッと入ってくる水のように、満足する。

今もどこかでメッセージを投げかけてくれている人がいるはずだ。身近な人だったり、自然界や絵本新聞テレビなどを通してだったり・・・気づいていないだけかもしれない。

伝わる瞬間を感じたい。感じてほしい。

いいクリスマス、お正月をお迎えください。

橋詰清子



勉強会

9月18日(木) 事前勉強会 カトリック岡崎教会

10月9日(木) 「私のたまため箱」—遺言書の書き方 P31~38—岡崎市福祉会館(市役所隣)

遺産相続で心が傷ついたり、仲が悪くなったりしている人が多い。そのようにならないために市内の税理士や行政書士さんが「遺言書の書き方の相談にのりましょう」とNPOを立ち上げたと聞き、お願いしました。

【内容】

“円満な家族”と“豊かな人生”を送るために、たいせつな“遺言と相続”のはなし

NPO法人「遺言・相談・なんでも・相談センター」理事長 石原且也(行政書士)さん
開口一番3編の詩を読まれました。「お母さんのとこや」「お父さんとお母さん」「おかあさん」

おかあさん

おかあさんは、よそのひとにあったらいつもぼくのこと

「これうちのたからもの。」という。

ぼく、はずかしくなっちゃうよ。

おかあさんはぼくがねるときいつも

「こもりうたうたってあげようか。」という。

「いいよ。」といっても

「まあまあ、そうえんりよしないで。」といって、

うたいながらねてしまう。

ははのひに、かあねえしょんをあげて

「ひやくさいまでいきろよ。」といったら、ないた。

おかあさんは、ぼくのたからものだ。



1. 遺言書はなぜ必要なのか？
書いて良かった例 無かったため起きた例
2. どんな書き方があるの？種類と特徴
・自筆証書遺言
・公生証書遺言の薦め
3. どこにだしたらよいの？
4. いつ書いたらいいの？
書き直しができるからいつでもいい
5. 費用はどのくらいかかるの？
100万まで=5000円 1000万まで=17000円
3000万まで=23000円 5000万まで=29000円
1億まで=43000円

遺したもので兄弟 親子 親族が争うことにならないように、遺された夫や妻や子供たちが幸せでありますようにと誰もが願っている。その思いがそのまま伝わるような遺言書を書いてほしい。こんなに愛してきた人達が良かれと思って自分が心まで傷ついてしまう。そんなことのないように、生きている時に書いておいてほしい。

互いに誰が何分の何とか、土地はだれにという配分の数字でだけでは思いが伝わらない。そこに想いを添えるということをする。誰もが納得する遺言状を書くポイントは想いを添えること。遺言書は遺書ではな

い。人と人を結ぶ結い言です。これまでの自分の人生を書いてもいい、あなたをこんなに愛していたという手紙でもいい、均等に分けなかった理由(例・兄は大学に行かせられなかったが弟は行けた・姉には結婚資金を出してやれたが妹はまだ高校生)を書き添えるのもいい。今の気持ちを書けばいい。それができない時はお手伝いします。何度でも書き換えられます。これまでに自分のところでお茶を飲みながら人生を語ってくれた人もいます。それをまとめて書き、これでいいと思ったらサインをするだけでいい。そんな書き方もある。

「ほんとうのやさしさとはこころを形に残すこと わたしの人生の記録 愛するものへの結い言です」

という言葉で結ばれた。心を添える『結い言』という言葉に、“おかあさん”の詩にあった『うちのたからもの』が『ぼくのたからもの』と思える遺言書を書いてほしいという石原さんの人への熱い心を感じました。気楽に相談にきてほしいと、うれしいお誘いをいただきましたので電話番号をお知らせします。
無料相談受付：NPO「遺言・相談・なんでも・相談センター」電話予約 090-6760-6788（石原且也さん）



【感想】

- ・「私のたまたま箱」を作った時、家族への想いを残しておきたい言葉は考えましたが、具体的には不動産まで書類にして公正証書を書こうとは思いませんでした。「遺言は今の自分の心を書けばよい。後は受け継いだ者が考えればいいのです。」と聞いて納得しました。家族としていつまでも『結い言』を忘れないで毎日を大切に生きようと思いました。
- ・遺言とは結ぶ言葉、自分の記録で後に残す子供たちがもめないように自分の思いをしっかりと書き残すことの必要性を感じました。
遺言書をしっかりと書き残すことを楽しみ、なるほどと思えるように、さすがと思えるように、にやっと笑えるようにかけたら良いなと思います。放蕩息子を思う親心の深さを思い知らされました。終わりよければすべて良し自分の人生のしめくり、しっかりしたいと思いました。
- ・遺言は資産の多い方だけが書くものだとおもっていました。子供が「争族」にならないためにも書いておくべきだと改めて思いました。遺言に書いておいたお金も気楽に使用しても良いこと、何度も書き直しができること、知らない事ばかりです。「愛する者への“結い言”金額だけでなく心や思いを残すこと」素敵な言葉です。実行に移したいと思います。ありがとうございました。
- ・日頃、やらなければと思いながらも、親子の信頼関係さえ大切にしていればと甘い考えでおりました。本当に大事なことを教えて頂きました。今一番必要なNPOを立ち上げてくださり心強くありがとうございます。とりあえず、家族で今日の資料をもとに「勉強会」を開きます。



“手縫い”の報告

愛知病院・市民病院・国際病院・施設へ雑巾や依頼された品を手作りしてお届けしています

（第1木曜日 13:00～16:00 カトリック教会・第2火曜日 10:00～12:00 愛知病院）

毎月1回、第1木曜日にカトリック教会での手縫いの会の出席者がすくなくなり少しさびしい気もしますが、その一方で私たちでは難しい物も快く引き受けてくださるイオンの中のマジックミシンの方々や「手縫いの方で使ってください」とロックミシンを寄付してくださる方があったりと、いろいろの形で協力いただける事はうれしい事でもあり、また励まされます。

最近バンダナに付ける髪を整えたり、いろんな種類の袋を裁断したりと簡単な作業が中心です。手芸をしてテーブルクロスを作る人もあり、見ていただけでも楽しいです。

愛知病院では手縫いの雑巾を縫っています。

是非一度参加してみてください。



“つどい”の報告

患者・家族・遺族（誰もが遺族）の集まり

（第3木曜日 10:00～12:00 橋詰さん宅）

今も思い出す度に、悔やむことがある。あの時「風呂に入りたい」と言った父に、熱が出るといけないからと、入れてあげなかった。この事は姉と私の共通の後悔であり、6年の経過はあっても二人で眼を赤くして父の思い出話を繰り返している。

父は胃がん末期で入院中、久しぶりの自宅外泊でその事を口にした。一人で動くのがつらくなっていた父は諦めざるを得なかった。その後家に帰りたいという思いも叶わぬまま逝ってしまった。

残された時間など分からない生を生きていた父とのかけがえの無い時間を、なんてことをしたんだと悔やんでいるのである。時々「つどい」でこのことを口にし、父にわびている。